

鹿児島・南種子町の小中高生 宇宙が縁 大館市訪れ交流



たんぽぼ作りに挑戦する南種子町と大館市の子どもたち

宇宙開発の関連施設がある縁で大館市と交流がある鹿児島県南種子町の小中高生16人が、26日から3泊4日の日程で大館市を訪れている。27日は同市の中央公民館でたんぽぼ作りを体験した。南種子町からの訪問団は2年ぶり。

一行は26日夜に大館入り。27日は中央公民館で歓迎セレモニーが開かれ、今年1月に南種子町

を訪問した大館市内の小学5、6年生14人から、記念品が贈られた。

続いて市内の農産直売所・陽気な母さんの店の女性たちから教えてもらいながら、たんぽぼ作りに挑戦。4～6人ずつの班に分かれた子どもたちは、声をかけ合いながらあきたこまちをすり鉢ですりつぶし、秋田杉の棒にのぼし付けた。完成したたんぽぼは炭火で焼き、みそ付けたんぽぼや比内地鶏などと一緒にきりたんぽ鍋にして味わった。市特産のトンブリも振る舞われた。

南種子町の荃南小6年の島崎達也さんは「きりたんぽぼ作りは初めての経験。ご飯をすりつぶすのが難しかったが、みんなで楽しくできた」。大館市の山瀬小6年の佐々木杜夢さんは「1月以来だったが、すぐに当時の雰囲気になって打ち解けた」と話し、久しぶりの再開を喜んでいた。

一行は曲げわっぱ作りの体験や秋田犬との触れ合いも楽しんだ。28日は北秋田市の森吉山阿仁スキー場でスキーを体験し、29日に帰路に就く。南種子町は、ロケットエンジン燃焼試験場がある旧田代町と1997年に友好協定を締結。田代町が大館市と合併した翌2006年には大館市と友好交流宣言を行い、小中学生の相互訪問などを続けている。(伊藤康仁)

(令和8年3月28日(土)秋田さきがけ新聞より一部抜粋)